

日々の祈り

2021年7月26日(月)～31日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるまに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・教会に連なる一人一人が、神さまの恵みに依り頼んで、忠実に信仰の道を歩むことが出来るように。
- ・体の弱さ、痛み、苦しみを覚えている者に、また心に不安や悩みがある者に、癒しと慰めがあるように。
- ・世界の人々が、主において互いに愛し合うことが出来るように。

26日(月)

ルカによる福音書 16章 13節

どんな召し使いも二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。すべてのことについて、神さまを一番に考える者でありたいと願います。富を用いる時も、隣人との交わりの時も、自分の生活を営む時も。すべては神さまから頂いたものであり、すべては神さまからの恵みです。わたしたちはどのようにすれば、この豊かな恵みを惜しみなく下さる神さまに、喜んでいただくことができるでしょうか。

27日(火)

エフェソの信徒への手紙 4章 5～6節

主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます。

お一人の神が、父・子・聖霊なる三つにいまして一つなる唯一の神が、わたしたちの主なる神です。このお方は、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます。わたしたちがこの神さまのものであるからこそ、個性豊かな、違いがあるわたしたちも、神さまにあって一つになることが出来るのであり、互いにすべてを分かち合いながら、共に歩いていくことが出来るのです。

28 日(水)

ローマの信徒への手紙 11 章 36 節

すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように、アーメン。

神さまが、すべてものの源です。神さまによって、すべてのものが、保たれています。そしてすべてのものは、神さまに向かっています。つまり、わたしたちは神さま出て、わたしたちは神さまによって保たれ、わたしたちは神さまに向かっているのです。愛と憐れみによって、わたしたちは恵みへと招かれ、神さまの救いのご計画の中を導かれていきます。やがて、ついには神さまの御許に至ります。なんと力強く、なんと幸いなことでしょうか。「栄光が神に永遠にありますように、アーメン。」

29 日(木)

サムエル記上 16 章 7 節

しかし、主はサムエルに言われた。「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」

目に見えるものの情報量の大きさ、またその確かさは、わたしたちにとって重要なものであり、また判断に大きな影響を与えます。しかし、目に見えるものに依り頼み、目に映るものしか見えなくなってしまうのはいけません。わたしたちは、神さまの见えない恵みを見つめ、見えないことを信じ、本当に重要なことを見極めなければなりません。神さまが見つめておられることを、わたしたちも見つめるようになりたいのです。そして、それを知ることが出来るように、神さまはわたしたちに御言葉を与えて下さるのです。

30 日(金)

エレミヤ書 17 章 9 節

人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。誰がそれを知りえようか。心を探り、そのはらわたを究めるのは／主なるわたしである。それぞれの道、業の結ぶ実に従って報いる。

次の主日礼拝の御言葉です。人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。わたしたちの心は、自分でも知りえないほどに深く病み、罪に捕らえられています。良いことをしたいと思いながら、人を傷つけている。正しいことをしているつもりで、いつしか自分の正しさを主張し、人を裁く者になっている。自分でも気づかない罪を、そしてそれゆえの苦しみを、神さまはわたしたち以上によくご存じです。この神さまに新しく変えていただくのでなければ、わたしたちは正しく歩むことは出来ません。

31 日(土)

ルカによる福音書 16 章 15 節

そこで、イエスは言われた。「あなたたちは人に自分の正しさを見せびらかすが、神はあなたたちの心をご存じである。人に尊ばれるものは、神には忌み嫌われるものだ。」

明日の主日礼拝の御言葉です。わたしたちは自分に都合の良いことを「正しい」ことにしがります。そして、それを人から承認されることを求めます。認めてくれない人は、「間違っている」と判断します。でも、わたしたちは神さまの「正しさ」を求め、神さまが良しとして下さることを知らなければなりません。神さまの御心を、わたしたちの心とできますように。